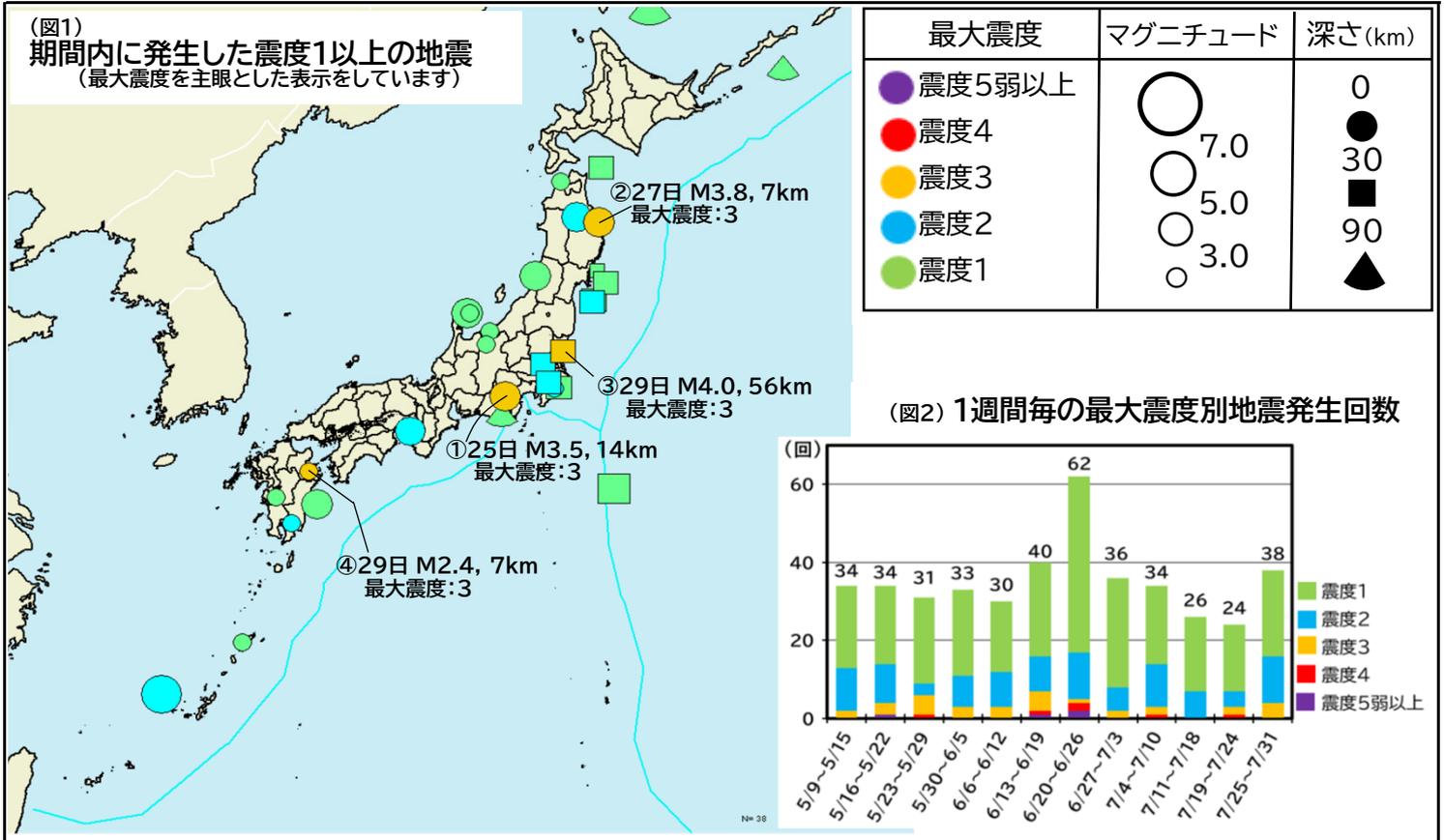


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が38回発生。最大震度は3。■
- ①25日07時17分に静岡県東部で発生した地震(M3.5、深さ14km)により、静岡県富士宮市で震度3を観測したほか山梨県及び静岡県で震度2~1を観測。25日から26日にかけて、この地震を含めて震度1以上を観測した地震が6回発生(震度3:1回、震度2:2回、震度1:3回)。右図参照。
- ②27日00時34分に岩手県沖で発生した地震(M3.8、深さ7km)により、岩手県野田市で震度3を観測したほか、岩手県と青森県で震度2~1を観測。
- ③29日08時03分に茨城県北部で発生した地震(M4.0、深さ56km)により、茨城県常陸太田市で震度3を観測したほか、福島県から千葉県にかけて震度2~1を観測。
- ④29日23時07分に大分県南部で発生した地震(M2.4、深さ7km)により、大分県豊後大野市で震度3を観測。



1997年10月以降に静岡県東部で発生した地震(M≧2.0)  
×印は今回の地震の震央

トピックス

■ 桜島 噴火警戒レベル5 ■

- ・7月24日夜、桜島にレベル5の噴火警戒レベルが発表されたことから、桜島で大正時代に発生した大規模噴火の再来かと受け止めた人も少なくないと思うので、ここでは噴火警戒レベル、桜島の火山活動等について触れます。
- ・噴火警戒レベルとは、火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標。
- ・レベル5は最も高いレベルで「人が住む地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生した場合、あるいは切迫している状態にある場合」に発表される。
- ・桜島は噴火警戒レベル「5」で想定される状態を2つに大別している。①今回のような爆発的な噴火によって、噴石が島内の一部の居住地域に飛んで危険が及ぶようなとき(例:1970,80年代の噴火)。②島内全域の範囲に被害が及ぶほか、島外を含む広域にわたって影響が及ぶ「大規模噴火」が予想されるとき(例:大正噴火)。
- ・気象庁は24日夜の爆発的な噴火は①に該当すると判断し、噴火警戒レベルをレベル5「避難」に引き上げた。
- ・これを受け鹿児島市は桜島南部の一部の地域(33世帯51人)に避難指示を発令した。
- ・桜島の活動の源となるマグマ溜まりが始良カルデラの地下約10kmにあり、地殻変動観測などによってマグマの挙動及び火山活動との関連性の研究が進んでいる。地殻変動観測と地震観測が噴火予測の大きなカギとなっている。
- ・桜島は他の火山に比べて噴火の予測体制が進んでいる火山であり、観測データから、今回の活動がそのまま大正噴火につながることはないだろうとの考えが一般的。しかし、桜島は国内有数の非常に活発な火山であるので、これからも将来にわたって桜島の噴火活動は続くものと考えられる。
- ・今回の活動を契機として、大規模噴火に対する備えと、その時の防災行動を再確認する機会と捉えるべきでしょう。